



岡山県内経済情勢報告

令和6年2月1日

財務省中国財務局

岡山財務事務所

本調査にかかるお問い合わせ先
財務省中国財務局岡山財務事務所
財務課長 原田
TEL (086) 223-1131 内線 411

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	

（注）6年1月判断は、前回5年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を下回る見込み	
企業収益	5年度は減益見込み	5年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超に転じている	「上昇」超に転じている	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
輸出	前年を下回っている	前年を下回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店販売は、外出機会の増加により引き続き化粧品などが好調なことから前年を上回っている。スーパー販売は、物価上昇による節約志向がみられるものの、ハレの日の需要により総菜などが好調なことから前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、来店客数の増加により飲料などが好調なことから前年を上回っている。家電大型専門店販売は、買替需要が一段落したパソコンなどが減少したことから前年を下回っている。ドラッグストア販売は、新規出店効果のほか医薬品などが好調なことから前年を上回っている。ホームセンター販売は、暖冬の影響によりストーブや冬物寝具などが不調なことから前年を下回っている。乗用車販売は、小型乗用車及び軽乗用車が減少するものの、普通乗用車が増加していることから前年を上回っている。

このように、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 【百貨店】感染症5類移行後のマスク着用緩和の影響により化粧品などが好調だった。
- 【スーパー】商品単価の上昇に加え、感染症5類移行後に人の集まる機会が増えていることに伴い、敬老の日や七五三などのお祝いメニュー商材（寿司やオードブル）の動きが好調であるなど、売上高は前年を上回っている。
- 【コンビニエンスストア】飲料やクリスマスケーキの予約販売、チキンが好調だったほか、感染症5類移行後初の年末年始は人流が増加し、来店客数も増加している。
- 【ドラッグストア】新規出店効果もあり来店客数が増加しているほか、インフルエンザなどの流行により風邪薬が好調な状況が続いている。
- 【ホームセンター】節約志向の高まりに加えて、なかなか気温が下がらなかったことで季節商品の動き出しが低調となったこともあり、来店客数及び買い上げ点数が減少している。
- 【商店街】感染症の5類移行やイベントの開催により人流は増加。今後は、イベントの定期開催や設備改修を予定しており、商店街の回遊性の向上により、売上増加に期待している。
- 【専門店】商品値上げの影響や人流増加による来店客数の増加により、売上は増加し、コロナ禍前の水準を上回っている。感染症5類移行後初めての年末年始であることから、親族や、会社の同僚向けの個包装で多数入った大箱の土産菓子などの売上が大きく伸びている。

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

化学は、定期修理の完了により増加している。鉄鋼は、自動車向けを中心に需要が好調であることから横ばいとなっている。電気機械は、中国景気の回復遅れなどによる影響を受けて減少している。自動車は、供給制約の影響が和らいでいることから、横ばいとなっている。石油精製は、定期修理の影響などにより減少している。造船は、新規受注の獲得により増加している。工作機械は、海外経済の回復ペースが鈍化する中、減少している。

このように、生産活動は、足踏みの状況にある。

- 【化学】国内外の需要に弱い動きが見られるものの、前期に実施した定期修理の完了により生産量は増加している。
- 【鉄鋼】海外市況低迷の影響を受け、海外向けが減少しているものの、自動車産業における生産状況の改善を受けて、需要が好調な自動車向けを中心に、前年を上回って推移している。
- 【電気機械】中国景気の回復の遅れなどによる影響を受けて、受注が減少している。
- 【自動車】供給制約の影響が和らいでおり、生産量は前年を上回っている。
- 【石油精製】航空需要の回復によりジェット燃料需要は堅調であるものの、定期修理を実施したことに加え、暖冬やエネルギー転換などの影響により、灯油などを中心に需要が減少している。

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

雇用情勢は、卸売・小売業の新規求人数が増加していることから、緩やかに持ち直している。

- 【職業紹介】卸売・小売業で新規出店などを要因に求人は増加している一方で、物価上昇に伴う企業収益悪化の影響を受け求人を控えるなどの弱い動きもみられることから、有効求人倍率は概ね横ばいとなっている。
- 【運輸、郵便】2024年問題に向けて、勤務時間を短くしてシフト制にするなどの対応を行っていることにより、人手不足感は一層強まっている。今のところ人手不足による受注見送りは起きていないが、今後そういったケースがでてくるのではと危惧している。

■ 設備投資 「5年度は前年度を下回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年10-12月期

- 製造業では、鉄鋼で大型投資の反動減がみられるものの、繊維工業、食料品などで生産能力の増強投資がみられることから、前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、金融、保険で老朽化による店舗建替えや改装などがみられるものの、小売、農林水産業で前年度投資の反動減などがみられることから、前年度を下回る見込みとなっている。

- 【鉄鋼】今年度は省エネ対応のための設備投資を予定しているものの、前年度に製造ラインの大型投資を行ったことから反動減となっている。
- 【繊維工業】生産能力・開発体制増強のため、工場の増設を予定している。
- 【金融、保険】店舗建替えのほか、新紙幣に対応するためATMの更新を予定している。
- 【小売】昨年、大規模な改装やテナントの入替えを行った反動から前年度比で減少している。
- 【運輸、郵便】業容拡大に向けて事業所兼倉庫の新築移転を予定している。

■ 企業収益 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年10-12月期

- 製造業では、価格転嫁の進展により食料品などで増益見込みとなるものの、設備投資に伴う減価償却費の増加により化学や、原材料価格の上昇により自動車などで減益見込みとなっている。
- 非製造業では、販売価格の上昇により小売などで増益見込みとなるものの、燃料費などの高騰により運輸、郵便や宿泊、飲食サービスなどで減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超に転じている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年10-12月期

- 企業の景況判断BSIは、「上昇」超に転じている。なお、翌期は「上昇」超幅が縮小する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数で見ると、持家が減少しているものの、分譲住宅や貸家などが増加していることから前年を上回っている。

■ 輸出 「前年を下回っている」

- 輸出は、品目別では非鉄金属などが増加しているものの、石油製品や鉄鋼などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、西欧などが増加しているものの、アジアや大洋州などで減少している。

岡山県内経済情勢報告

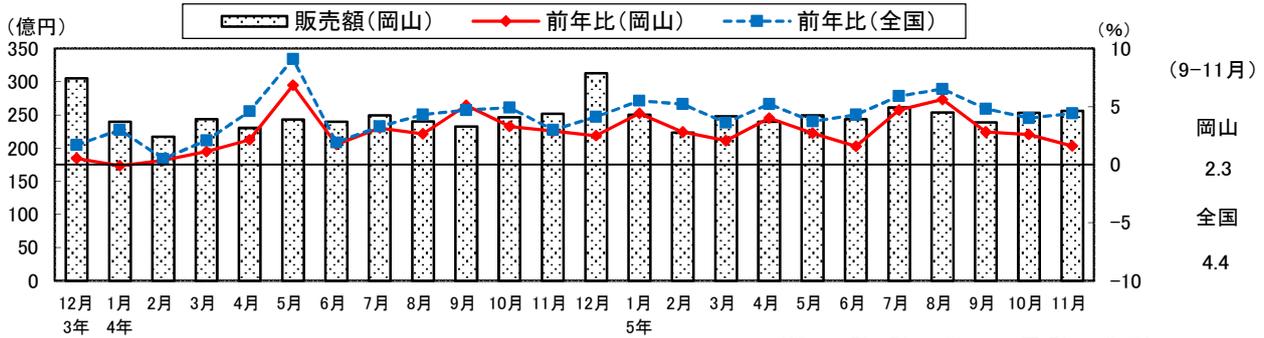
資料編

	目次	ページ
1.	個人消費.....	1
2.	生産活動.....	3
3.	雇用情勢.....	4
4.	設備投資.....	5
5.	企業収益.....	5
6.	企業の景況感.....	5
7.	住宅建設.....	6
8.	輸出.....	6

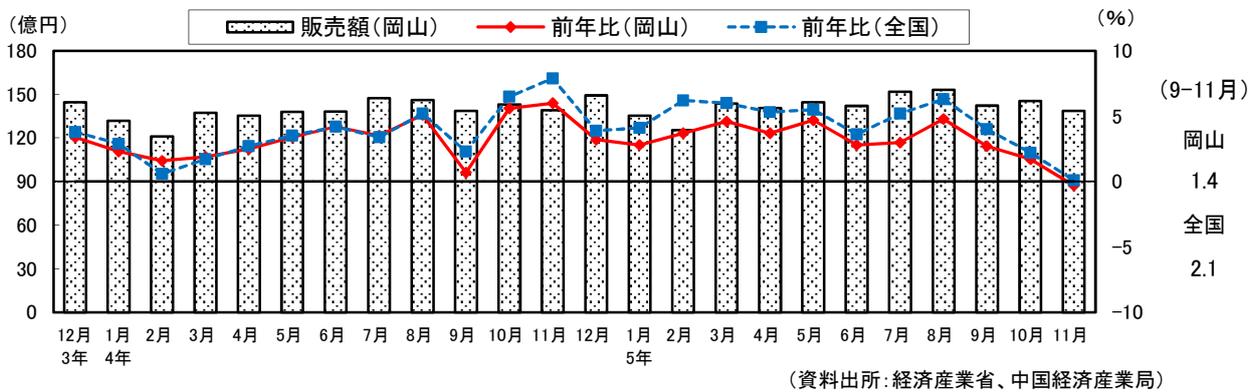
※グラフの外枠（右側）に記載している計数は、各項目の状況を分析する上で参考とした前年比、指数、倍率。

1.個人消費 緩やかに回復しつつある

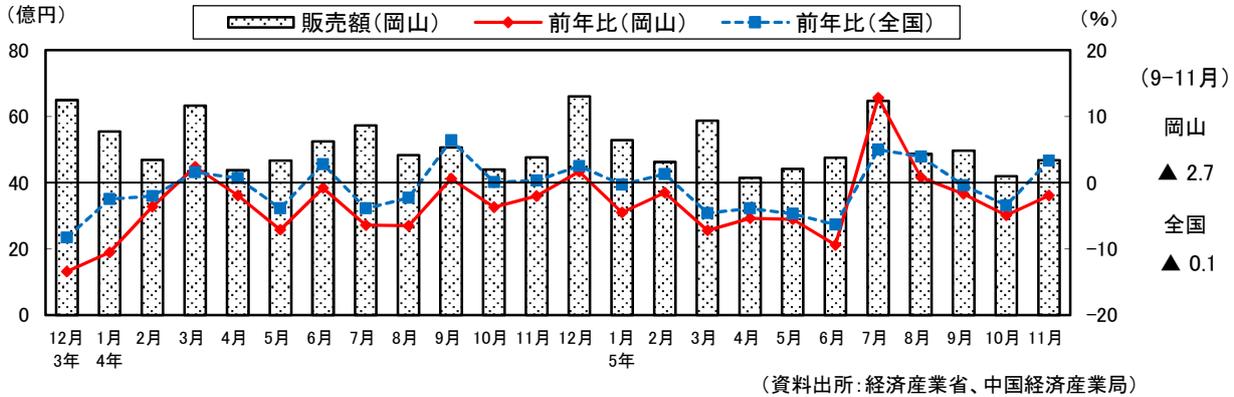
(1)百貨店・スーパー販売額(全店舗:前年比)



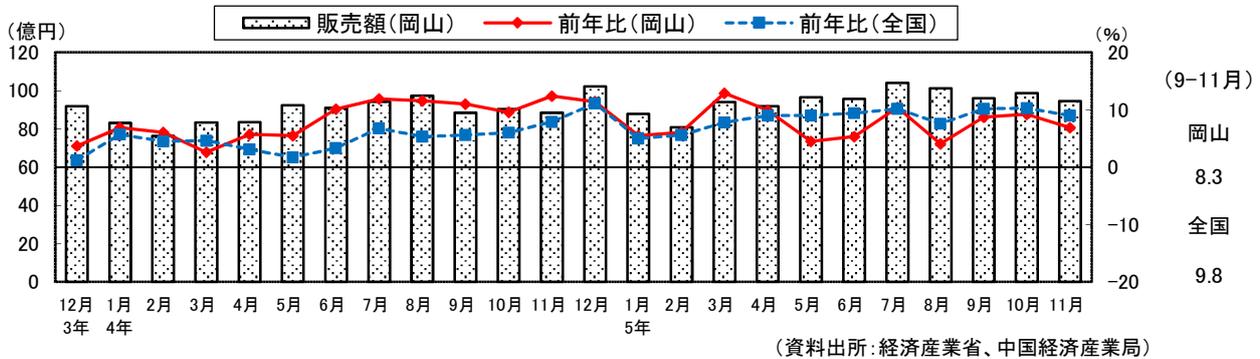
(2)コンビニエンスストア販売額(全店舗:前年比)



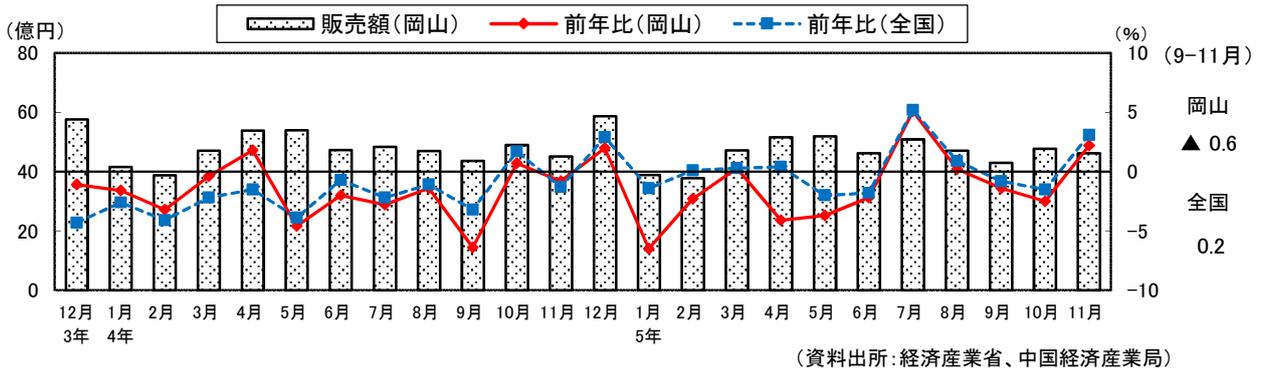
(3)家電大型専門店販売額(全店舗:前年比)



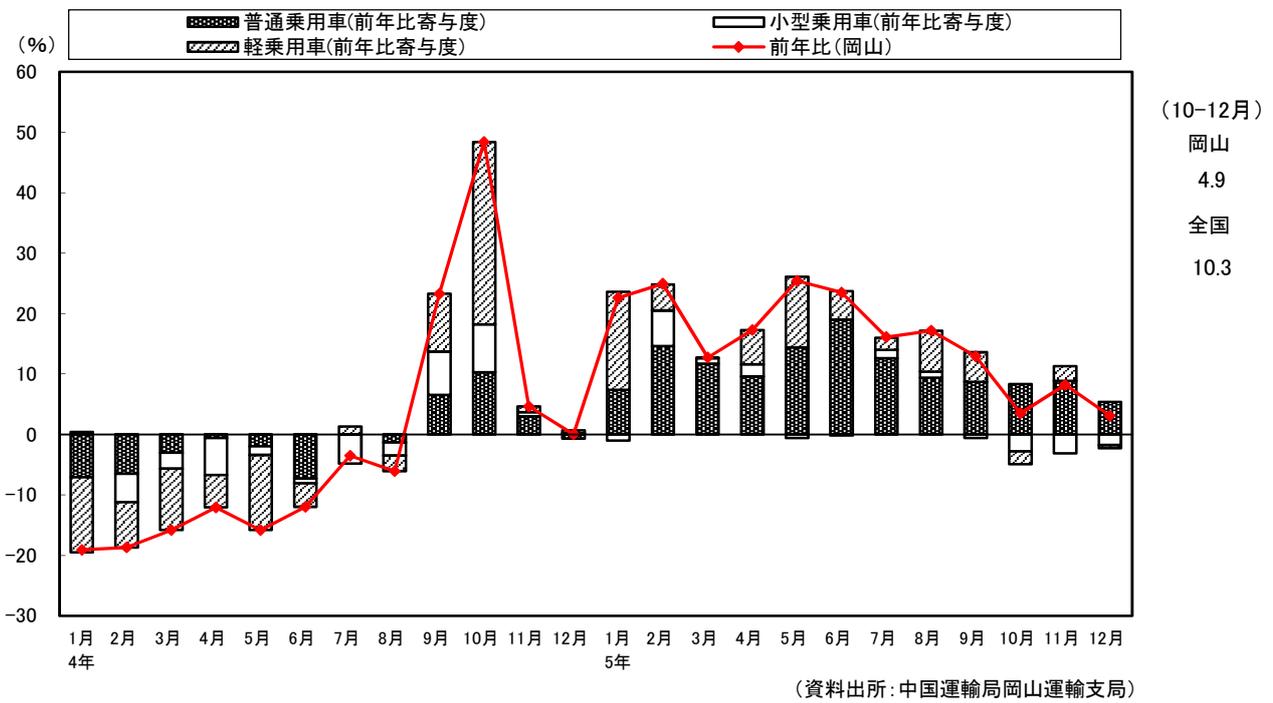
(4)ドラッグストア販売額(全店舗:前年比)



(5) ホームセンター販売額(全店舗:前年比)



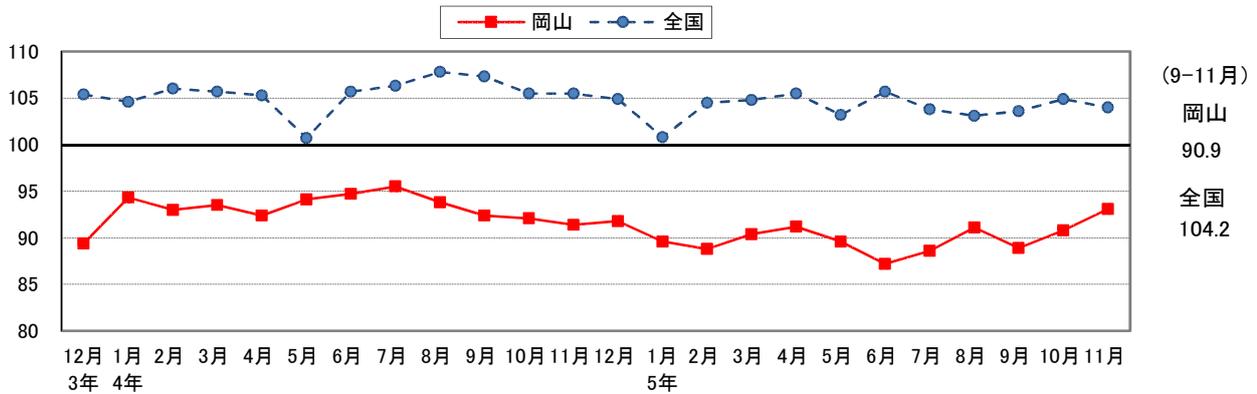
(6) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



2.生産活動 足踏みの状況にある

(1) 鉱工業生産指数(季節調整済)

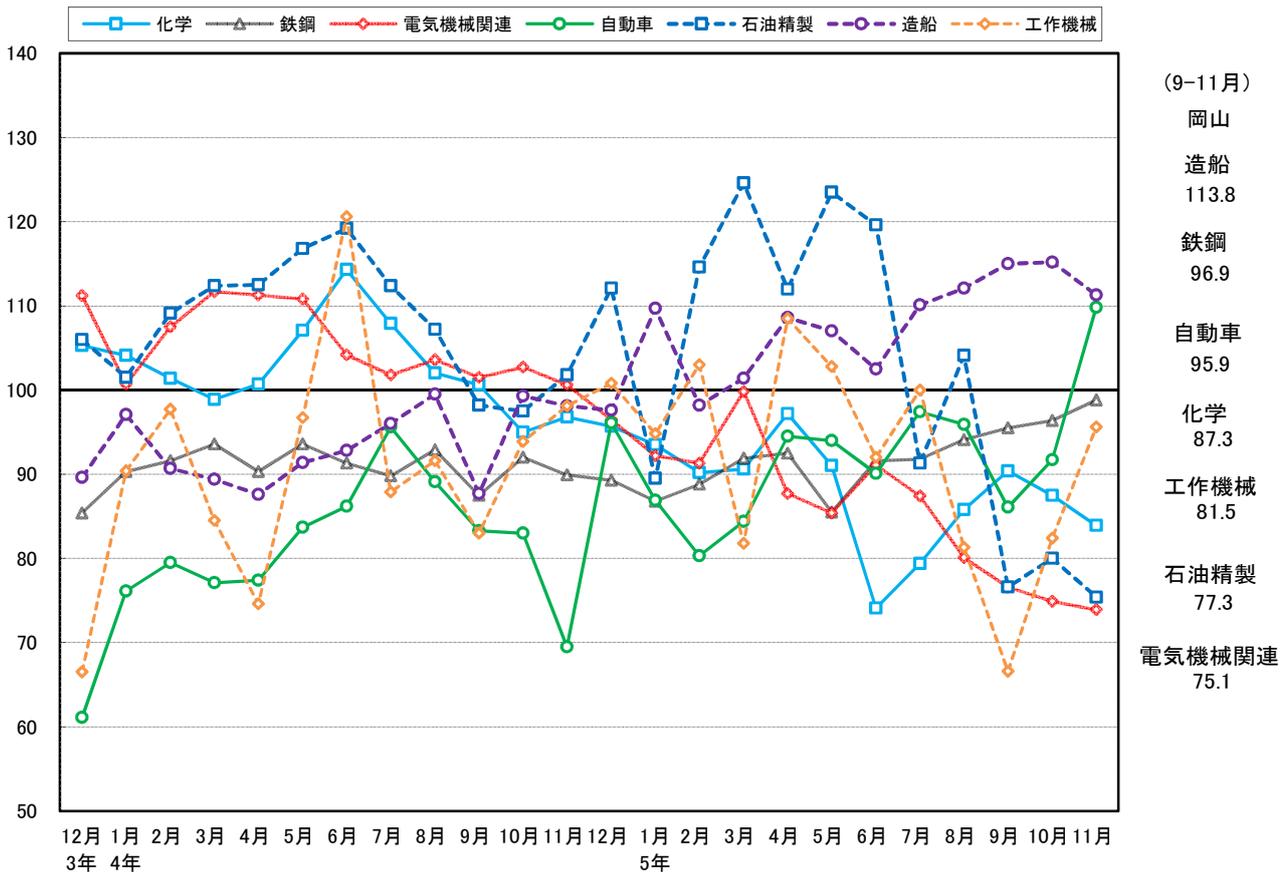
(指数)(全国:令和2年=100、岡山:平成27年=100)



(資料出所:経済産業省、岡山県)

(2) 主要産業別生産指数(季節調整済)

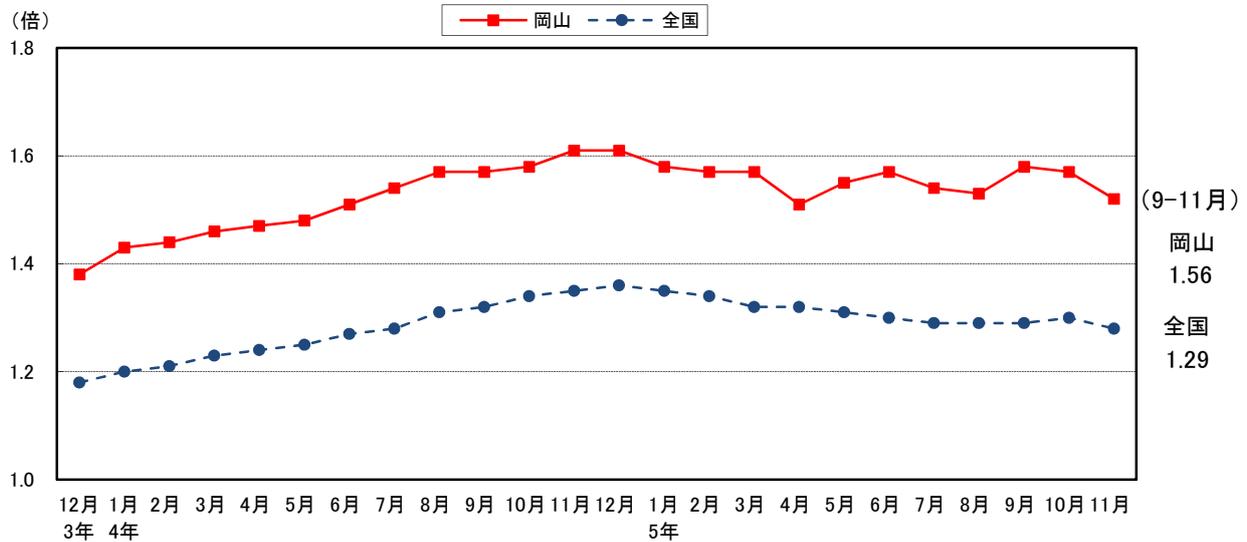
(指数)(平成27年=100)



(資料出所:岡山県)

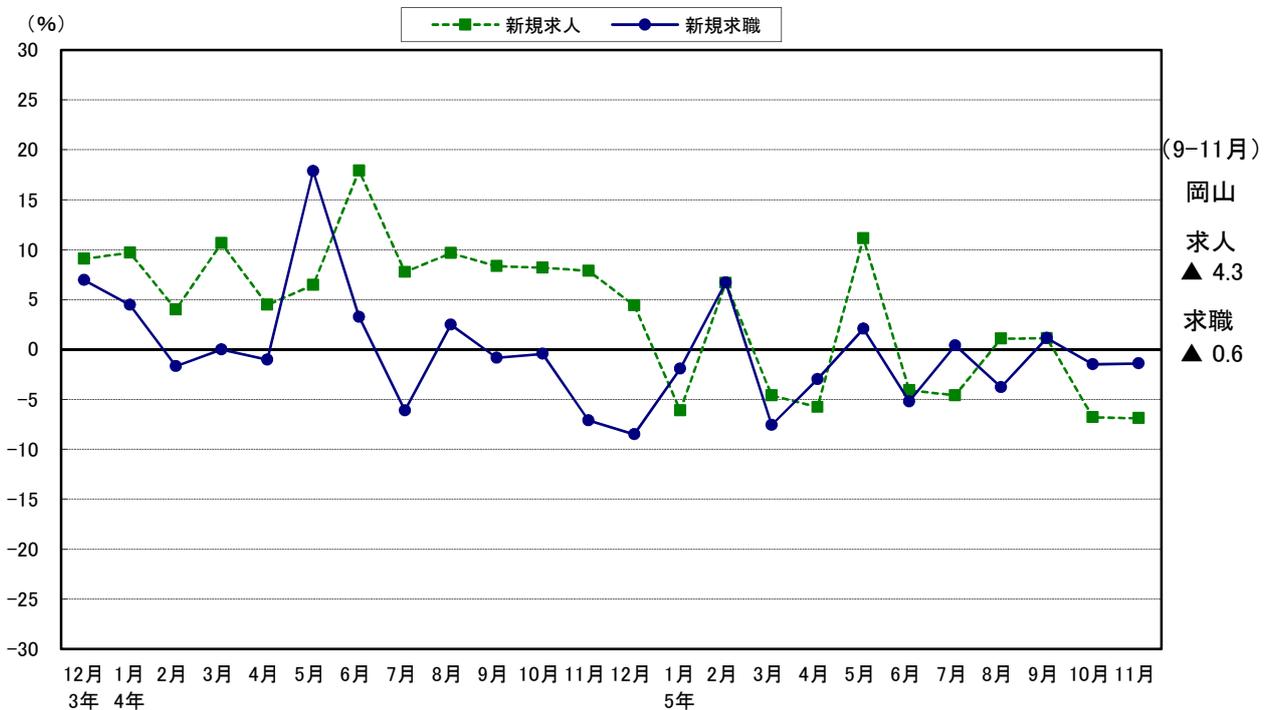
3.雇用情勢 緩やかに持ち直している

(1)有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(資料出所:厚生労働省、岡山労働局)

(2)新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



(資料出所:岡山労働局)

4.設備投資 (除く土地、含むソフトウェア投資) 5年度は前年度を下回る見込み

(前年度比増減率:%)

設備投資	全産業		製造業		非製造業	
	(前年度)	(5年度)	(前年度)	(5年度)	(前年度)	(5年度)
5年度	(0.9)	▲ 3.1	(3.2)	2.5	(▲3.7)	▲ 14.7

(注)当所法人企業景気予測調査(5年10~12月期)結果
()書きは前回(5年7~9月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

5.企業収益 (電気・ガス・水道業及び金融業・保険業を除く) 5年度は減益見込み

(前年度比増減率:%)

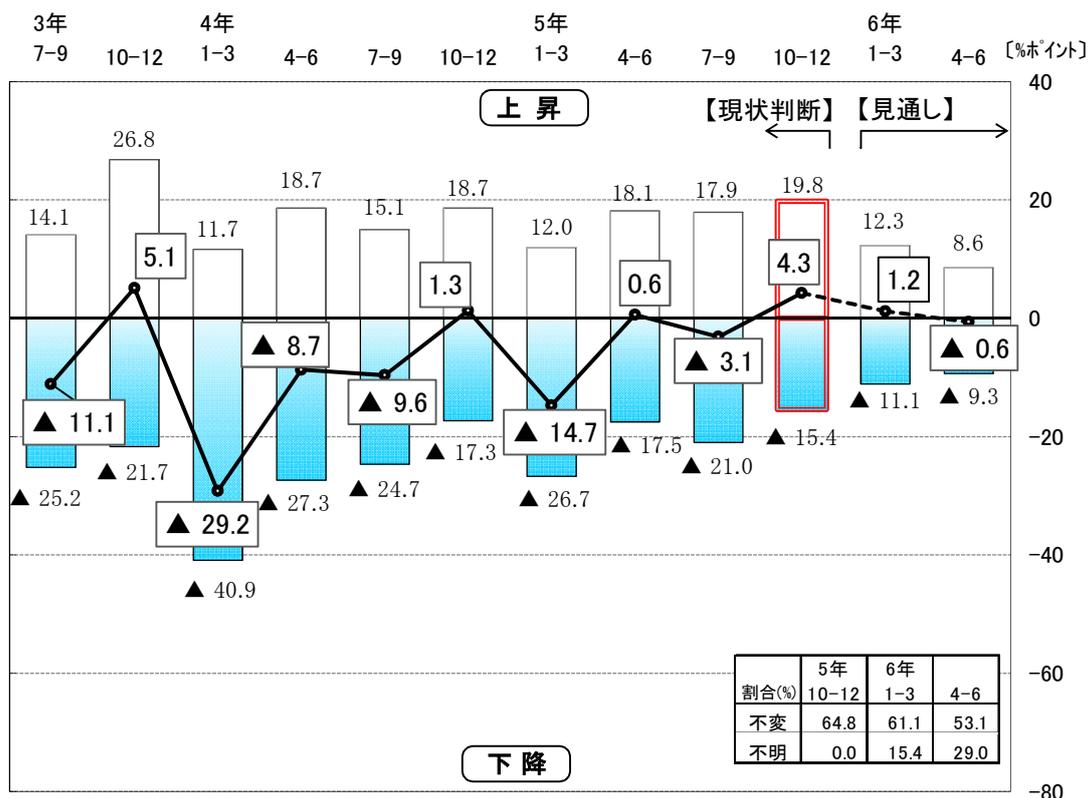
経常利益	全産業		製造業		非製造業	
	(前年度)	(5年度)	(前年度)	(5年度)	(前年度)	(5年度)
5年度	(▲32.8)	▲ 27.5	(▲46.4)	▲ 36.6	(▲11.6)	▲ 13.6

(注)当所法人企業景気予測調査(5年10~12月期)結果
()書きは前回(5年7~9月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

6.企業の景況感 「上昇」超に転じている

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI:前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)

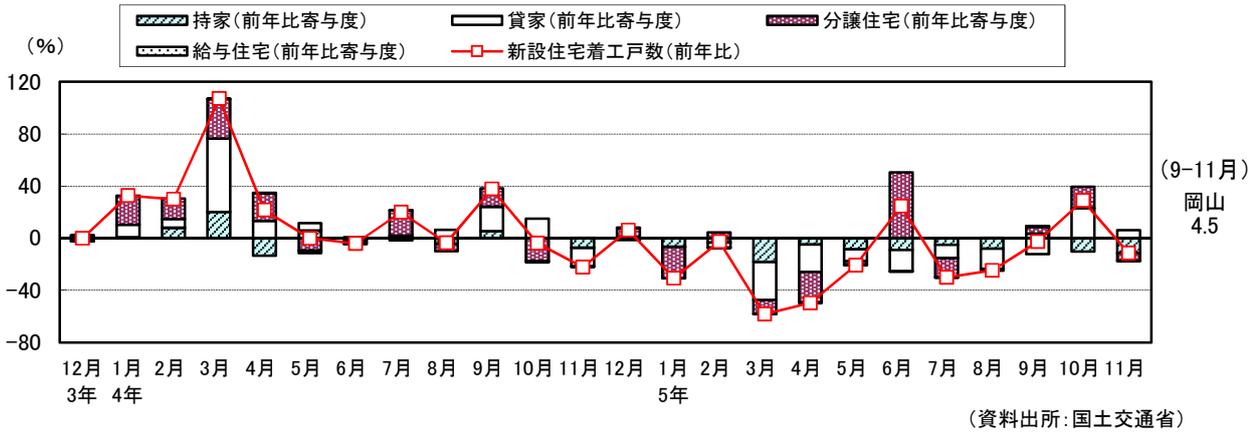


(注)当所法人企業景気予測調査(5年10~12月期)結果

(資料出所:岡山財務事務所)

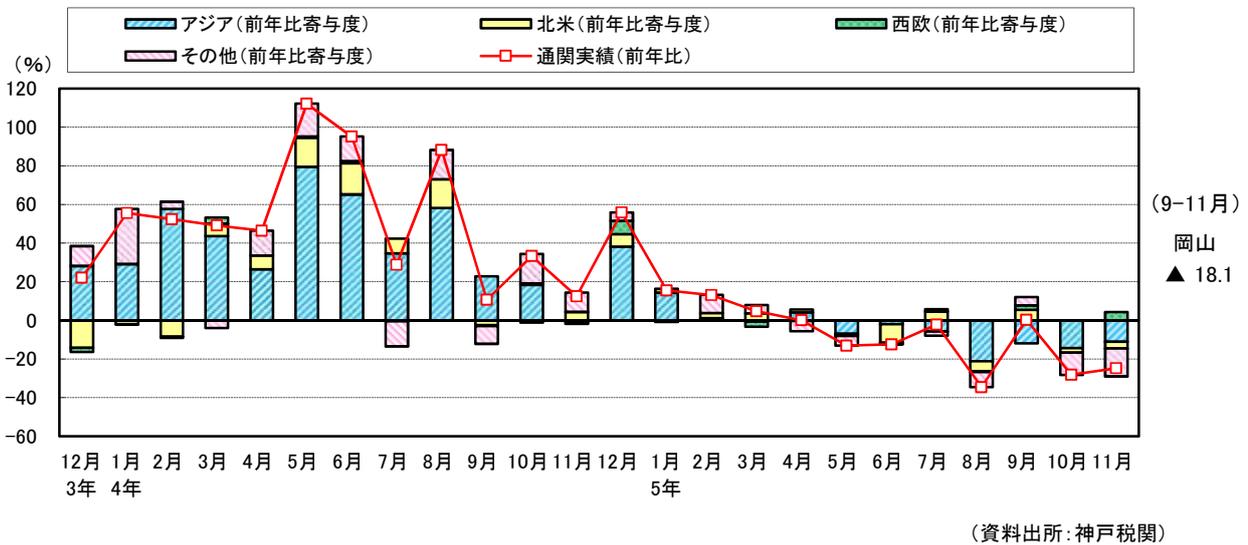
7.住宅建設 前年を上回っている

新設住宅着工戸数(前年比及び利用形態別寄与度)



8.輸出 前年を下回っている

輸出(円ベース)



<参考>

輸入(円ベース)

